

のぼりべつ

広報

人が輝き まちがときめく ふれあい交流都市 のぼりべつ

8月29日金から30日日の3日間、登別温泉で第34回登別地獄まつりが行われました。

高さ約6mの「閻魔大王が歩く山車」や絢爛豪華な「地獄大行列」、重さ約1tの赤鬼みこしが温泉街せましと練り歩く「鬼みこし暴れねりこみ」が訪れた観光客を楽しませていました。



特集

いつまでも

我が家で暮らしたい

1997 No. 564

10/1

高齢化社会の到来

厚生省の発表（平成8年）によれば、日本人の平均寿命は、男性が77・01歳、女性が83・59歳と史上最高齢を更新し、過去30年間で男性が約9歳、女性が約10歳延びたそうです。

人口の高齢化は、高齢化率（高齢者数（65歳以上）÷全人口×100）によって表すことができますが、平成8年10月1日現在の日本の高齢化率は15・1%。平成62（2050）年には32・3%に達し、平均寿命は男性が79・43歳、女性が

みなさんにとって、老いとは何でしょうか。老後とは何でしょうか。

「老いていくことで、体の自由がきかなくなり、病気がちになる。寝たきりになると、介護する家族の負担が大きく迷惑をかける。だから、病院や専門施設などに入り、住み慣れた地域や我が家を離れなくてはいけない。老いていくのは嫌なことだ」と、ある高齢者の方が話してくれました。

生活環境が充実し、医学の発達によって寿命が延び、高齢化が急速に進んでいく現代社会。

高齢者は、住み慣れた地域を離れて生きていかなければならないのでしょうか。家族の負担を極力減らし、高齢者と共に我が家で暮らしていける方法はないのでしょうか。

高齢者と家族が、共に不安を抱かず生活していける高齢化社会とは、どうすれば築いていけるのでしょうか。



いつまでも
我が家で暮らしたい

86・47歳に達するものと予測されています。

国民の3人に1人は65歳以上という、人類がかつて経験したことのない超高齢時代が、約50年後に訪れようとしています。高齢化は、登別市も例外ではありません。

登別市の高齢化率は、平成8年10月1日現在で、16・3%（9千350人）と全国の高齢化率を上回り、平成11年には18・3%に達すると予測されています。

6人に1人が高齢者。それが私たちのまち登別市の現状です。

老後はどうで暮らせばいいの？

私たちが「老後の生活」について考えたとき、不安に感じること

は何でしょうか。「自分の身体が病気がちや寝たきりになったり、痴呆になったとき誰が介護してくれるのか、もし介護が必要となるとき家族と共に生活していくことができるのだろうか」という介護の問題が最大の不安ではないでしょうか。

日本の高齢者介護は、子どもの配偶者や自分の配偶者など家族によるものが多く、家庭での介護のほとんどは女性が行っています。

また、介護する側の高齢化も進み、高齢者が高齢者の介護をするケースが増えてきています。

しかし、家庭での介護、すなわち在宅介護は、家族の心身の負担が重く「大変ですね」の一言ですむようなものではありません。もし、自分の家族に寝たきりや

痴呆の高齢者がいたらどうでしょうか。「片時も目を離すことができません、家を留守にすることもできない」「介護のために仕事を退職することになってしまった」「夜な夜な外を出歩き、近所に迷惑をかけてしまい評判になってしまった」「夜もゆっくり寝ることができない」などさまざまな問題が発生します。そんなことがつもり積もっていわゆる「介護疲れ」となり、家族の人間関係そのものが崩壊するようなことが起きる場合があります。

それでは、介護疲れを無くすために、高齢者に養護老人ホームなどの施設へ入所してもらえば介護問題は解決するのでしょうか。高齢者に限らず、私たちは家族と共に在りたいと願っています。そして年をとればとるほど、その願いは強くなっていきます。老人ホームなどの施設介護は、在宅介護よりも医療面などで充実した介護を受けられることができるかもしれません。しかし、体の介護は十分でも心の介護はどうでしょうか。施設での介護が心を無視したものというわけではありません。しかし、家族に支えられる安心感には代えがたいものがあるのではないのでしょうか。

高齢者のほとんどの方が、最期は自宅で迎えたいと願っているのです。死は誰しも避けることができませんが、どこでどのように

人生を全うするかは、その人にとって大切なことです。病院や施設などで点滴や人工呼吸器につながれたまま最期を迎えることが本人にとって、そして家族にとっても望ましいことなのでしょうか。自宅で家族に見守られながら最期を迎えたいという希望に、いかに応えることができるか。それは介護する家族だけではなく社会全体の問題です。

在宅介護を支援します

在宅介護を行うときに、一番問題になること、それは介護する家族の介護や医学的な知識の不足、介護疲れの軽減対策などが問題になります。「住み慣れた家で療養させてあげたい」と願ういっぽう、病人の世話の仕方や寝たきりを防

止する方法を知らなかったり、医療器具をつけて退院したため不安がいっぱいだったり、休日というものがない在宅介護そのものに不安を抱いたまま、在宅介護を始めしてしまう方もいると聞きます。

登別市には、市が委託し、北海道総合在宅ケア事業団が運営する「登別総合在宅ケアセンター」（しんた21内 ☎2221）があり、在宅介護の手助けを行っています。

「登別総合在宅ケアセンター」は、看護や介護を必要とする高齢者や障害をもつ方が、住み慣れた我が家で安心して暮らせるよう、看護婦が家庭を訪問して看護や介護を行う「訪問看護ステーション」と保健・福祉・医療サービスを総合的に提供できるように調整する「在宅介護支援センター」の二つの機能を併せ持っています。

訪問看護ステーション

「訪問看護ステーション」は、医師が訪問看護を必要と認められた方であれば年齢の制限がなく、病气やけがなどのため、家庭で寝たきりや寝たきりに近い生活を送っている方や痴呆、難病、心身の障害をもつ方を対象に看護婦が家庭を訪問し、日常生活の看護やリハビリテーションのお手伝いをするものです。



▲しんた21(左上)と登別総合在宅ケアセンター



▲しんた21の介護機器展示コーナー

母の願いと私の思いをかなえるために



このひろこ 今野弘子さん (64歳) ばなだ 花田きえさん (89歳)

89歳になる母と二人で新川町に暮らしています。母は、子どもの負担になりたくないという72歳まで働き続けていましたが、今年の2月に家で転んだのが原因で寝たきりになってしまいました。「家で死にたい。病院では死にたくない」という母の願いをかなえるため、在宅介護を決意しました。しかし、以前に直腸がんを患っていた母の身体は衰弱し、総合在宅ケアセンターに相談したところ、病状が安定

するまでと母に納得してもらい、入院することになりました。母の家に帰りたという一念か、一週間程度で体力がある程度回復し、医師に家に連れて帰りたという話したところ、びっくりされたことは今でも忘れられません。家で親の介護をすることが奇異な目で見られる社会というものに驚きました。

本格的な介護をはじめた私は、総合在宅ケアセンターと密接に連絡を取り、一時は毎日のようにセンターの看護婦さんに訪ねてもらいました。寝返りのさせ方や介護の方法をあまり知らなかった私が、センターの支援なしに介護をしていたら疲労と不安で押しつぶされていたと思います。身動きすらままならなかった母も、今では杖をついて家の中を歩けるまでに回復しました。父が早く死に、女手一つで私たちきょうだい6人を育ててくれた母に、最高の親孝行をすることができたと思います。

気丈で明るい母が、「100歳じゃ長生きしすぎだから99歳まで頑張るよ。本当に感謝してるよ。苦労かけたね」と笑っている姿を見ると、本当に我が家で介護して良かったと思います。

人と話すことが好きで市の老人大学を卒業した母が、このごろ「弘子も老人大学に入りなさい。私の母校なんだから。私も老人大学で書道とか習ったよ。趣味を持つのは大切だよ」と言ってくれます。母と暮らせる喜びを今、かみしめながら毎日過ごしています。

心の看護をお手伝いしています



こばやしよこ センター長 小林洋子さん 登別総合住宅ケアセンター

センターがこの登別に設置されてから1年がたちました。センターで働く前は、北大登別分院で副院長として看護に携わっていました。センターでは地域に根ざした看護の大切さを実感しています。病院での治療というのは、治ってしまえばそれで終わってしまうことがほとんどです。しかし、地域に根ざした看護とは病気になってしまった原因、寝たきりになってしまった原因から考えていかなければ

いけないんです。

高齢者の方が望んでいる生活を支え、そのための生活環境を整える。それが看護ではないかと考えています。

私たちが訪問看護ステーションで行っている看護は、点滴や注射などの医療行為もありますが、家族の方のできる看護の方法を指導し、介護力を高めていくことが重要なんです。

高齢者が寝たきりになってしまうほとんどの原因が、間違った介護にあります。トイレに行くのが間に合わず汚してしまうからおむつにする。ご飯を食べるとこぼすから食べさせてあげる。高齢者の方になにもさせず、人間としての生活能力を結果的に低下させてしまう。そこに介護の難しさがあるんです。

高齢者の方が、自分のことはできるだけ自分でする。これが寝たきりを防ぐ第一歩です。

正しい介護の知識を学ぶことで家族の方の負担を減らすことができるんですよ。介護している家族の方の心と身体の負担は大きく、私たちが訪問することで少しでも軽減できればと思っています。介護は技術的なものよりも、心のふれあいが一番大事なんです。いろいろなサービスがあっても、高齢者を介護する家族の優しさがなければ在宅介護を続けていくことはできません。高齢者の人格を尊重し人間的な生活をしてもらう。そのお手伝いをさせてもらう。それが私たちの仕事なんです。



▲相談を受ける職員

「在宅介護支援センター」は、寝たきりや寝たきりに近い高齢者の方を在宅で介護している家族を対象に、介護の知識や技術、介護機器の展示と紹介、各種申請手続きのお手伝いなど、家庭での介護について総合的な相談を受け、高齢者やその家族が望む保健・福祉・医療サービスを適切に受けることができるよう関係機関と連絡調整するものです。

在宅介護支援センター

- 具体的には、利用者のかかりつけの医師の指示を受け
- ① 病気の状態の観察と点滴などの処置
 - ② 体の清潔保持
 - ③ 食事の介助や指導
 - ④ 排泄の介助や指導
 - ⑤ 床ずれの予防と手当て
 - ⑥ 療養上の医療機器の管理
 - ⑦ リハビリテーションの介助と指導
 - ⑧ 家族への介護指導、相談などを看護婦が行います。

相談は24時間体制(無料)で受けることができますので、家族だけで悩まずに気軽に相談ください。また、在宅介護支援センターが紹介するさまざまなサービスは、高齢者の健康を保持し、介護する家族の負担を軽減します。

- ① ホームヘルプサービス

病気や心身に障害があり、介護を必要とする高齢者のいる家庭を対象に、家族の負担を軽減するため、ホームヘルパーが家事や介護の援助を行います。

② ショートステイ

寝たきりや痴呆性的高齢者を介護している家族の方が、病気や冠婚葬祭、介護疲れなどのために、一時的に介護できないときに、養護老人ホーム「恵寿園」や特別養護老人ホーム「緑風園」、老人保健施設「グリーンコート三愛」でお世話をします。

③ デイ・サービスとデイ・ケア

身体の虚弱な高齢者などを対象に、「しんた21」や「グリーンコート三愛」で入浴、食事、健康相談、リハビリテーションを行い、心と身体のリフレッシュを行います。

④ 入浴サービス

家庭に入浴設備があっても、寝たきりの方を家族が入浴させるのは大変なため、専用バスで送迎し入浴することができます。

⑤ 日常生活用具の給付

車いす、特殊ベッド、マットレス、エアーマット、歩行支援用具

おじいちゃん、おばあちゃん みんな頑張れ！

市から社会福祉協議会に委託され、始まったデイ・サービスも足掛け4年目を迎えました。

現在、しんた21でデイ・サービスを受けている方は約120名います。デイ・サービスは身体の弱い高齢者を対象に、入浴や食事の介護をするのですが、身体の介護ばかりではダメなんです。身体も心も健康になってもらう。人生を楽しんでもらう。そんな心のデイ・サービスを心掛けています。



ふじえのりこ
在宅福祉係長 藤江紀彦 さん
登別市社会福祉協議会

利用者のほとんどは、最初はあまり元気がなかったですね。でも、みんな笑顔を取り戻しましたよ。おしゃれになりましたね。デイ・サービスで友達ができて、職員と楽しく会話して、生きてゆく力が湧いてくるんでしょうね。中には利用日の前日は楽しみで眠れないという方もいます。利用者の笑顔を見ると私たちが明日への活力が湧きますよ。

これからの高齢者の方は介護してもらうだけでなく、自立して生きていくことを目指してほしいですね。高齢者は地域の宝です。大切な人たちなんです。社会参加して子どもたちにいろいろなことを伝えていってもらわなければいけないんです。受け身だけの存在では困ります。

もちろん私たちも頑張っています。でも、おじいちゃんやおばあちゃんたちも頑張してほしいんです。

先日、デイ・サービスを利用している高齢者の方が、普段練習している歌やダンスを発表したり、屋台を出したり、地域の方もいっしょになって楽しむデイ・サービス祭りを開催したんです。みんな一生懸命で、楽しんでいましたよ。誰もが笑顔ですよ。

高齢者の方と家族と地域の方が、みんな力であわせて生きていく社会。そんな高齢化社会を目指して、みんなで頑張っていきたいですね。

家族の強い意志が必要です！

在宅介護の最終的な目的は、高齢者の方が病院や施設ではなく、「我が家で死を迎えたい」という願いをかなえてあげるところにあります。

しかし、介護をする家族の負担は大きく、身体と心に蓄積する疲労は並大抵のものではありません。「家で介護しなければならない」という考え方ではなく、「家で介護したい」という家族の強い意志がなければ在宅介護を続けていくことはできません。



かいどうひろゆき
副院長 開田博之 さん
開田医院(中央町)

高齢化社会に突入した現代、在宅介護の必要性が叫ばれていますが、特別養護老人ホームや養護老人ホーム、病院、老人保健施設など、施設での介護が在宅介護より劣っているからではありません。

医学的な面からみると、設備の整っていない家庭での介護は、いかに医師の訪問診療があるとしても限りがあります。確かに高齢者の方の願いをかなえてあげるのは良いことだと思いますし、私も在宅介護の訪問診療を行っています。

介護の方法は、家族の意志と家庭の環境、高齢者の方の健康状態、住宅事情によって在宅介護か施設介護かを選択すべきだと思います。在宅介護での家族の負担は、訪問看護ステーションや施設でのショートステイなどを利用することで、いくらか軽減できます。在宅介護を支援する制度はいろいろありますので、利用できる制度は利用して少しでも介護する方の負担を軽くすることが大切です。

在宅介護を考えている方は、まず総合在宅ケアセンターに相談してください。在宅介護は、家族の方だけで悩んでいても負担を軽くすることはできません。高齢者の方の願いは、医師、看護婦、保健婦、ホームヘルパーの協力体制と、家族の強い意志が支えるのです。

(手すり)、入浴補助用具(シャワー)などの給付や貸付を受けることができます。

登別総合在宅ケアセンターは、高齢者と介護をする家族のためにある機関です。

高齢者を介護し、共に生活していくことは簡単なことではありません。

家族だけで悩んでいるよりも、専門的な知識を持っている機関のアドバイスや援助を受け、軽減できる負担は軽減していかなければなりません。

高齢者と家族が、共に喜びを分かち合い生活していけるよう、介護の体制を整えるため登別総合在宅ケアセンターは活動しています。

みんなのでつくる 本当の高齢化社会

充実した在宅介護を実現するためには、介護を必要とする高齢者の方が、趣味や友人との会話など、生きていく心の張り、すなわち生きがいを見つけ、愛する家族と共に住み慣れた地域で人間らしく人生を全うできるように、家庭や地域の環境、生活のリズムを整えていかなければなりません。

在宅介護は、単に介護だけの問題ではなく、高齢化社会全体の問題としてとらえる必要があります。高齢化社会とは、一方的に高齢

者が負担となり、また負担と感ぜられるような社会を指すのではありません。

高齢者と共に生き、高齢者が不可欠と思える社会こそ、本当の高齢化社会と呼べるのではないのでしょうか。

そのためには、高齢者の方は第一線を退いた感にとられず、常に地域社会と接触し心に張りを持ち続けることが大切です。

高齢者を支えていく世代は、介護の正しい知識を学び、世代を超えた交流の場などを設け、高齢者が地域社会にとけこめる素地をつくっていかなければなりません。高齢者とそれを支える世代が、共により良い高齢化社会をつくっていかなければならないのです。

介護や高齢化の問題は、高齢者を介護する家族と高齢者だけが取り組めばいいということではありません。

核家族化が進行し、家庭での介護力が低下している今日、私たち一人ひとりが真剣に取り組んでいかなければならないのです。

なぜなら、本当の高齢化社会はすでに訪れているのではなく、私たちが高齢になったとき、目の前にある社会をいうのですから。



西

東



9月8日(月)、登別漁港で秋サケが初水揚げされました。午前6時すぎ、登別漁業協同

朝日に輝く銀りんキラリ

組合と虎杖浜漁業協同組合所属の漁船2隻が、操業開始日の6日(土)に仕掛けた秋サケの定置網を引き上げ帰港。

船倉から約80匹のサケがクレールで選別台に移され、漁協職員員出で雄や雌、ランク別に仕分けしていました。

初日の水揚げは、約8千匹(約24ト)と例年に比べやや少なめの漁模様でしたが、虎杖浜・登別漁協共同荷さばき場でのセリ値は、雌が1.0当たり338円から280円、雄が

96円から45円と昨年より若干高め。登別漁協の長瀬参事は「去年の秋サケの水揚げは、約589トありました。けさのサケは、思ったより高値でホッとしました。秋サケ漁が終わる12月上旬まで、豊漁が続き、価格も安定してくれると良いのですが」と話していました。



若山町内会の花壇

8月25日(月)から26日(火)にかけ、登別市民憲章推進協議会(篠原幸盛会長)による、平成9年度花壇コンクール審査が行われました。

このコンク

ルは、同協議会が花いっぱい運動の一つとして、6月に市内の小・中学校や町内会などへ、有

まちを花いっぱい!

料で配布した苗でつくった花壇を視察審査するもの。視察には同協議会、登婦連、町内会、消費者協会などから25名が参加し、花の成育状況や手入れの状態を見てまわりました。25日(月)は、昨年まで3年連続受賞した西陵中学校をはじめ、16の小・中学校、26日(火)には町内会、事業所の花壇23カ所を入念にチェック。

審査の結果、今年度は小・中学校の部で富岸小学校が最優秀花壇



富岸小学校の花壇

に選ばれ、一般の部では若葉町内会(若山町)の花壇が最優秀花壇に選ばれました。受賞した若葉町内会会長の松山博さんは「他市町村まで花壇の視察に出かけ、町内会ぐるみの取り組みが実りました」と喜びでいっぱいでした。

愛を呼び掛ける24時間ランナー

8月23日(土)から24日(日)にかけて、民放の24時間テレビの福祉募金活動に賛同した、登別走ろう会による「24時間チャリティリレーマラソン」が行われました。

この催しは、同会の会員が中心となり、中央町のアーニス前を発着点に、一周約5kmのコースを24時間リレーで走り続け、募金を呼び掛けるものです。

23日の午後6時、最初のランナーがスタート。快調なペースでたすきをつないでいきましたが、24日の早朝には雨が降りだし、午前8時ごろには土砂降りの雨。

そんな最悪の天候にもめげることなく会員は走り続け、たすきをつなぎました。

昼には雨もあがり、飛び入りで

リレーに参加する市民の姿もみられました。58名が走ったこのリレーも、24日の午後6時、参加者全員が一緒にゴールに飛び込み幕を閉じました。

募金には、小銭を重そうに持ってきた主婦をはじめ、子どもからお年寄りまで多くの市民が協力し、その額は、昨年の約2倍の23万8千98円となり、全額を民放テレビ局へ届けました。登別走ろう会会長の安田麻夫さんは「障害をもつ方や恵まれない方たちのために、募金活動に賛同して今年で4年目になります。年々助け合いの輪が広がっており、いつまでも続けていきたいですね」と話してくれました。



走

9月7日(日)、「ふれあい広場97のほりべつ」がしんた21で開かれました。

この広場は、障害をもつ方やお年寄りが地域住民とふれあい、互いの理解を深めることを目的に行われ、今年で9回目を迎えました。



車

世代を超えたふれあいを求めて

この日は、あいにくの小雨模様でしたが、屋外会場では、障害をもつ方が製作した手芸品・革製品などの展示即売会や、福祉・ボラン

ティア団体などによる焼き鳥やでん、あげいもなどの露店に、たくさんの家族連れが訪れていました。また、体験コーナーでは、車いすの試乗や目隠しをして視力に障害をもつ方の疑似体験をするブラ

インドウォーク、手話の講習会などが行われました。車いすの試乗では、段差や傾斜のある場所での車いすの移動の難しさを体験し、ブラインドウォークに挑戦した参加者は、アイマスクをつけ盲導犬と一緒に会場内を歩き、障害をもつ方への理解を深めていました。

えんま 閻魔大王に永遠の愛を誓う

第34回登別地獄まつり最終日の8月31日(日)、登別温泉町の極楽通りの閻魔堂で「閻魔大王前結婚式」が行われました。

結婚式を挙げたのは、応募のあった6組の中から抽選で選ばれた登別温泉町の会社員堀江幸生さん(28歳)と青森県八戸市の松石明美さん(25歳)。

殿様とお姫様の衣装をまとった新郎新婦は、閻魔大王の前で「偽りを申さず、助け合い、誠実をもつて、夫婦生活を営みま

す。」と誓いの言葉を読み上げ、署名捺印。上野市長夫妻の媒酌で三三九度が行なわれ、指輪交換のあと、北海自衛太鼓による祝福演奏が行われました。

観光客が立ち並ぶ沿道には、祝いのもちがまかれ、観光客と一体となった結婚式は大いに盛り上がりしました。

「慣れない衣裳をまとっての結婚式でしたが、多くの方に祝福していただき、私たちも親族も感激しました」という二人に、観光協

会からグアム島旅行券が、極楽通り商店街振興組合からは登別温泉宿泊券が贈られました。



食べものも空気もおいしいね!

9月13日(土)から14日(日)にかけて、札内町のソーシャルグリーンで、「第11回北海道クロスカントリーレース」と「第14回大地の祭典」が開催されました。

見渡す限りの緑が美しい札内の大平原を駆け抜けるクロスカントリーレースは、愛好者も多く愛知県から参加した70代の夫婦もいるほど。3km・6km・12kmの3種類の距離が設けられ、5歳から81歳までの男女、約450名が参加し、さわやかな秋風を楽しんでいました。



大地の祭典では、特産和牛のバーベキューに舌鼓をうつ、多くの家族連れの姿が見られ、特設ステージで行われた「札内神楽獅子」などの郷土芸能や「羊のダビー」など、さまざまなイベントを楽しんでいました。今回、初めて大地の祭典に訪れたという室蘭市在住の津島知美さんは、「野外で飲むビールって本当においしいですね。バーベキューも最高です。来年もまた、友だちと来るつもりです」と話してくれました。



津島知美さん

市民リポート

『ごみ』の家庭内分別 ぶんべつ

捨てる人のマナーが大事

私たちの生活にはごみがつきものです。そして、ごみをまったく出さずに生活するのも困難なことです。平成8年度に、市内の家庭から出された1日のごみの量は約42・2ト、収集車で18台分になるそうです。

ちよつと周りを見渡せば、ごみやごみになりそうなものはいたるところに見つけることができます。衣料や食品、家具、電化製品などをこん包している発泡スチロール、買物のビニール袋、トレイなど、すべて身の回りにある物ばかりです。

これらはすべて、燃やせるごみ、燃やせないごみ、資源ごみに分けられ処理されますが、みなさんはどれだけ正しく分別することができますか。

リサイクルが叫ばれる昨今、自分自身のごみについての知識を確認するため、『ごみ』をリポートしてみました。

ドラム缶ステーション

利用していますか？

街を歩いていると、ドラム缶が5、6本まとめて置かれているのを見かけます。そのドラム缶には「雑びんボックス・無色、茶色、その他」「あき缶」と書かれています。もちろんこれは不法投棄されたごみではありません。

このドラム缶は、リサイクル資源として雑びんやあき缶を回収するためのステーションなのです。市のリサイク



▲ドラム缶ステーション

ル推進室の話では、平成8年度に回収したあき缶は67・18ト、個数でいうとアルミ缶76万7千200個、スチール缶11万7000個になるそうです。

資源の大切さを考え、リサイクルしている方も大勢いるんだと頭の下がる思いです。私の場合、ビールびんなどの換金できるびんは保管していました。が、そのほかのびんやあき缶は燃やせないごみの日に出していました。まったくもって頭が下がります。

手間を惜しまない

ごみの分別

こんなことではいけないと思い、実際にごみの分別を行っている方のお話を参考にさせていただこうと、徹底し



市民リポーター

こしみずかずのり
小清水和令さん
(柏木町・46歳)

たごみの分別をしているという工藤猛さん(富士町4丁目)にお話しをお聞



▲「ごみの排出はマナーが大事」という工藤さんご夫妻

きました。

「私の家では、台所横に分別ボックスを2個用意して、燃やせるごみ、燃やせないごみに分け、回収日の朝に決められた場所を持って行きます。あき缶、雑びんは物置に区分して保管し、一週間に1度、近くに設置されているドラム缶ステーションに持って行きます。スプレー缶は穴を開けて中のガスを抜いてから持って行きます。スプレー缶は中にガスが残っていると危険なので、一昼夜、庭に放置して、ガス

▲最終処分場(千歳町)



▲リサイクルされるあき缶

公共施設名	所在地
市役所庁舎	中央町6丁目11
市民会館	富士町7丁目33-1
しんた21	片倉町6丁目9-1
労働福祉センター	千歳町3丁目1-8
鉄南ふれあいセンター	幌別町3丁目17-1
老人福祉センター	富士町7丁目11-1
総合体育館	若山町2丁目26-1
若草つどいセンター	若草町4丁目21-1
郷別公民館	郷別町3丁目3-4
登別公民館	登別東町2丁目21-1
婦人センター	登別東町3丁目6
富浦児童館	富浦町1丁目52-3
登別温泉支所	登別温泉町60-1
登別温泉公民館	登別温泉町17

自主回収店舗名	所在地
グイエー 幌別店	千歳町1丁目4-3
ホームストア 幌別店	富士町6丁目38-1
室蘭生協 アーニス店	中央町4丁目11
室蘭生協 新生ストア	新生町3丁目15-10
室蘭生協 旭丘ストア	若草町3丁目1-5
登別サテイ	若山町4丁目33-1
志賀総合食料品店 イースト店	美園町1丁目8-2
志賀総合食料品店 若草店	若草町2丁目14



▲登別市清掃工場（幸町）



牛乳パックの回収ボックス設置場所

工藤さんから分別の知識と問題点を聞いた私は、ペットボトルなどの燃やせないごみの最終処分方法はどうかっているのだろうと思ひ、市の清掃工場を訪ね、職員に話を聞きました。

「現在、あき缶やあきびんのようにペットボトルを回収する予定はありません。あき缶や雑びんは、市内の資源回収業者で組織する登別資源リサイクル

のにおいが完全になくなるのを確認してから持って行きます。調理後の油も固形剤で固めて燃やせるごみとして出しています。ごみだけでなく、台所の排水にも気をつけているんですよ。お皿を洗うときは、不用紙でお皿についたマヨネーズなどをふき取ってから洗い、川や海の自然環境の保全にも気を使っています。分別には手間はおしまないほうですが困ったこともあります。私の家ではペットボトルの清涼飲料水をよく買うんです。ペットボトルは燃やせないごみなんです。本州ではリサイクルしているところもあると聞いています。登別市でもあき缶と同じように回収してくれればいいですね。それと、牛乳パックの回収ボックスが、もっと多くの場所にあると便利ですね」と工藤さん。

市民のみなさん

ご協力ください！

「現在でも、燃やせるごみの中に、金属類・陶器・ガラス・スプレー缶などがまざっていることがあるそうで、炉に負担がかかるばかりか、収集作業時大変危険です。」

今から、分別をしっかり行って、新しいごみ処理施設を大事に使用していきたいものです。

守ろう！

ごみの排出ルール

「私たちが人間は、一人で生きていくことはできません。一人ひとりが集まって、一つの社会を構成しています。」

「ごみをきちんと処理するという、心の分別、守っていききたいものです。」

「現在でも、燃やせるごみの中に、金属類・陶器・ガラス・スプレー缶などがまざっていることがあるそうで、炉に負担がかかるばかりか、収集作業時大変危険です。」

今から、分別をしっかり行って、新しいごみ処理施設を大事に使用していきたいものです。

「現在でも、燃やせるごみの中に、金属類・陶器・ガラス・スプレー缶などがまざっていることがあるそうで、炉に負担がかかるばかりか、収集作業時大変危険です。」

今から、分別をしっかり行って、新しいごみ処理施設を大事に使用していきたいものです。」

「現在でも、燃やせるごみの中に、金属類・陶器・ガラス・スプレー缶などがまざっていることがあるそうで、炉に負担がかかるばかりか、収集作業時大変危険です。」

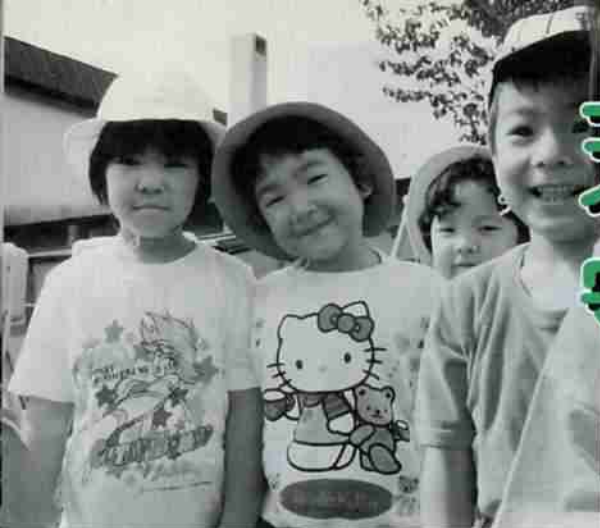
今から、分別をしっかり行って、新しいごみ処理施設を大事に使用していきたいものです。」



▲ネット式ごみステーション

「現在、登別市では美観や衛生面、収集効率などからネット式（無形化）ごみステーションが推奨されています。」

「多くの人が一つの社会で生活していくためには、さまざまなルールが必要で、家庭の中、会社の中、どこにもルールがあります。ごみの分別方法やステーションへの出し方をみんなが守る。トレイやパック、過剰包装紙など不要なものは家庭に持ち込まない。新聞紙やビールびん、牛乳パックなどを再利用できるものはリサイクルする。不法投棄などは論外です。」



天使の笑顔を 守り育てるために

登別市子育て支援総合計画（登別市エンゼルプラン）

女性の社会進出や核家族化・少子化の進行など、子どもを取り巻く環境は大きく変化しています。

子どもは、親はもちろん、社会全体にとってもかけがえのない存在です。

次代を担う子どもたちが豊かな人間性をはぐくみ、健やかに成長することは、私たちの喜びであり、願いでもあります。

エンゼルプランてなあに？

子育てをしながら働くことの難しさや、子育てによる心や身体、経済的な負担など、子育てには解決していかなければならぬさまざまな問題があります。

また、近年、男女の結婚観の変化による晩婚化、非婚化などのため出生率が低下し、子どもの数が年々減少しています。出生率の低下による総人口の減少は、年金や医療保険など社会保障費の負担の増加や労働力の不足を招き、社会全体の活力の低下など、さまざまな影響を及ぼします。また、出生数の減少は、子ども同士でふれあう機会が少なくなり、社会に適應する能力が育ちにくいなど、子どもの人格形成面でも問題があるといわれ

ています。

次代を担う子どもたちが、健やかに成長するためには、安心して子どもを生み、育てることができる環境を整えていかなければなりません。子育ては、子を持つ親だけの問題ではなく、社会全体で取り組んでいく必要があります。

市は、国や北海道のつくったエンゼルプランを基に、安心して子どもを生み、健やかに育てることができると環境づくりを、市民・企業・行政が一体となって進めるため、「登別市子育て支援総合計画（登別市エンゼルプラン）」をつくりました。エンゼルプランは、「登別市総合計画」で描いた将来像を実現するため、子育て支援の推進施策などを明確にしたものです。

計画はどんな内容なの？

この計画は、「家庭を基本にした子育て支援」「社会全体での子育て支援」「子どもの視点に立った環境づくり」の3つを基本的視点としています。

1. 「家庭を基本にした子育て支援」

家庭は、子どもの人間形成やしつけを行う重要な場です。しかし、核家族化や地域の連帯感が薄れていくことで、家族間や地域社会で子育てを助け合うことが難しくなっています。

このため、子育てについての相談の充実、経済的な負担を軽減するなど子育てのしやすい家庭環境づくりを支援します。

2. 「社会全体での子育て支援」

子どもたち一人ひとりが、豊かな人間性をはぐくみ、健やかに成長することは、



親にとっても喜びであると同時に、社会にとってもかけがえのない財産です。

子育ての中心となる場は家庭ですが、その親のみに子育ての責任を求めることは難しく、社会全体での子育て支援が求められています。このため、行政・地域・企業・学校など、社会全体での子育て支援に取り組んでいきます。

3. 「子どもの視点に立った環境づくり」

子どもたちが、心身ともに健やかに育つためには、子ども同士の遊び、年齢の違う子どもとのふれあい、ボランティア活動への参加など、さまざまな体験をすることが大切です。

このため、子どもの主体性や自主性を重視した遊びや、人・自然などとふれあう機会を提供し、生き生きとたくましく育つ環境をつくっていきます。

どんなことをやるの？

この計画は、子どもの健やかな成長と

家庭での子育てを支援していくため、今後行っていくさまざまな事業の方向性を大きく5つに分けています。

①家庭と子育てについての意識啓発

子育てを社会全体で支援するため、家庭・地域社会・企業など、あらゆる分野で子どもと家庭の問題の関心を高めるため、子育てサークルや母親クラブの組織化、セミナーの開催など、さまざまな啓発活動を行っていきます。

また、家事や子育てを夫婦共同で進めていくよう、男性を対象とした料理教室や子育て講座などの啓発活動を行っていきます。

②仕事と子育ての両立支援

女性の職場進出が進み、共働き家庭が増えていきます。しかし、核家族化や家族の小規模化が進み、仕事と子育ての両立が難しくなっています。

このため、乳児保育や時間延長保育、一時的保育などのさまざまな要望に対応

できる保育サービス、また、言葉の遅れや発達に不安のある就学前の子どもを受け入れる「こどもセンター(仮称)」の開設を検討するなど、保育サービスの充実を図り、仕事と子育てを両立するための支援を行っていきます。

③家庭における子育て支援

子育ての不安や悩みなどを持つ親へ、適切な相談・助言が行えるよう、母親や父親同士の交流や情報交換の場、関係機関との連絡調整など幅広い機能を持った「地域子育て支援センター」の開設を進めます。また、子育てをしている親が、仕事や趣味、ボランティアなど社会参加できるような環境を整えるため「ファミリーサポートセンター」が行う相互援助活動の普及・充実に努めます。

さらに、子育てについての関心を高めるため、母親学級や家庭教育学級、親子ふれあい講座など、家庭の教育機能の向上を図ります。



④子どもを大きく育てる教育・文化・スポーツ環境の充実

子どもに豊かな感性や温かい思いやりの心をはぐくむために、優れた芸術文化やスポーツを身近なものとして親しめる環境の充実を図り、ボランティアに関する学習の機会や活動の場を提供します。

また、遊びを通して科学や文化などを体験できる「児童文化センター(仮称)」の整備を進めます。

⑤子どもと子育てにやさしい生活環境の整備

地域のボランティアや子ども会などと連携し、児童館などの充実や公園の整備を進めるなど、子どもが身近なところで

のびのびと遊ぶことができる場所の確保に努めます。

また、乳幼児を連れて公共施設を利用する方への環境づくりを進めるため、エレベーターの施設や玄関前のスロープ化など、公共施設の整備改善を行います。

登別市エンゼルプランは、アンケート調査や、福祉・教育・経済関係に携わる市民などから構成された「子育て支援総合計画推進会議」による意見や要望を反映させ、つくられたものです。

子育ては、子を持つ親や行政のみではなく、地域全体、市民一人ひとりが現状と問題をとらえ、考えていくべきものではないでしょうか。

子どもたちの天使のような笑顔は、私たちみんなの財産であり、社会の活力です。その天使が羽ばたける世界を、私たちはつくっていかねばならないのです。

計画をもとに 着実な子育て支援を

かた やま とし ゆき
片山敏之さん
(富岸小学校長)

登別市子育て支援総合
計画推進会議委員長



エンゼルプランの策定に市民の意見を反映させるため、福祉や教育、経済の関係者が一堂に会して、子育てについての意見交換を行いました。

会議では、「遊びを通して科学や文化などを体験できる児童文化センターの建設が予算的に無理であれば、既存の施設を整備したほうがよい」といった意見や「子どもたちの遊び場をもっと積極的に確保すべき」「市立幼稚園の今後の在り方を明確に」などさまざまな意見が出されました。

この計画の根底にある「社会全体で子育てを支援していく」ということは、子どもの健やかな成長と子育てしやすい環境づくりにつながっていくのではないかと考えています。この会議に参加したことで、学校教育という一つの分野だけではなく、幅広い視点から子育てを考え、また、委員それぞれの立場からさまざまな意見を聞くことができ、大変勉強になりました。「安心して子どもを生み、健やかに育てる環境づくり」の計画(登別市エンゼルプラン)が、今後実現されると登別市はすばらしいまちになると思います。

地域からの 子育て支援を

ふく かわ のり こ
福川矩子さん
(登別市ファミリーサポートセンターアドバイザー)

登別市子育て支援総合
計画推進会議委員



登別市ファミリーサポートセンターのアドバイザーとして参加しました。

計画には、乳幼児の育児相談や助言、情報提供の場として地域子育て支援センターの開設、未設置地区への児童館の設置など、さまざまな子育ての支援事業が盛り込まれています。

登別市は、全道の各市に先駆けて「子育て支援」に目を向け、積極的に取り組んでいると思います。

社会全体の宝である子どもは、地域全体で育てていくべきです。この計画をもとに、社会全体で子育て支援を行っていくことは大賛成です。

しかし、子育て支援の一つであるファミリーサポートセンターは、設立されて1年経ちますが、まだまだ市民に浸透していません。働くお母さんからの依頼が多い反面、子育ての経験が豊富な50~60代の提供会員(預けられる側)が極端に少ないんです。若いお母さんたちに、ちょっとした子育てのアドバイスをしてあげるだけでも、子育ての不安を解消でき、安心して働けると思います。

▶問い合わせ 登別市ファミリーサポートセンター(☎00033)

いきいき ボランティア

『明日を見いだす心の福祉』



「しんた21でいろいろボランティア活動に携わり、自分の進路を見いだすことができました」と語る登別東町の佐藤正憲さん。

大学を卒業後、苫小牧市内の企業に就職しましたが、「自分のこれまでの生き方は、周

りの環境に流されている。自分自身を見つめ直したい」と、約半年で退職。実家のある登別に戻り、これからの進路や生き方を模索しながら毎日過ごしていました。

そんなとき、知人の紹介でしんた21で行われているさまざまなボランティアを知り、自分の進む道が見えてきたそうです。

「ボランティア活動に携わってまだ間もないとき、自分の進むべき道について悩んでいました。そ



んなとき、障害をもつ方に私のほうが励まされ、親身に相談に乗っていただいたんです。どちらかと言えば人と話すことが苦手なほうで、自分の考えをうまく人に伝えることができませんでした。でも、そのことがきっかけで、自分の思いを言葉に乗せることができるようになったりました。

進むべき道を見つけた佐藤さんは、今年の4月から、室蘭の北海道福祉衛生専門学校に入学し、本格的に福祉の勉強に励みながら、土・日曜日などを利用してボランティア活動を続けています。

「ちょっとしたきっかけで始めたボランティアでしたが、人と人との交わりや信頼関係など、とても大切なことを学びました。学校を卒業して、福祉関係の仕事に就いても、初心を忘れることなく頑張ります」と語る佐藤さんの目は明日を見つめています。

▼ボランティアについての問い合わせ
登別市社会福祉協議会ボランティアセンター(☎2080)

ちよつとひとこと

楽しかったこと、悲しかったこと、うれしかったこと、市への疑問や意見・要望などを企画広報室へ電話やはがき、封書、ファクスでお寄せください。

企画広報室 中央町6-11 ☎1122 FAX☎1108

敬老会で広報ビデオを放映しました

9月7日(日)に、町内会恒例の敬老会を開催しました。97歳の最高齢者をはじめ、78名が参加し会食を交えながら、楽しい一日を過ごしました。

今年、市の企画広報室からしんた21で行われているデイ・サービスを紹介した広報ビデオ「登別市のデイ・サービスマスター」と、市内で行われている行事を紹介した広報ビデオ「ときめきのまちのほりべつ'97春」を借りて放映しました。

高齢者や障害をもつ方の支援事業として、「こんなことをやっているんだなあ」と全員が真剣に見入っていました。

出かけることが少ない私たちにとつて、各地で行われている行事はなかなか見ることができません。

まちでどんなことが行われているか、市の事業にはどんなものがあるのか、テレビでみると

分かりやすいですね。ほかの町内会の方も利用されてはいかがでしょうか。

(美園南町内会 役員)

防災を忘れてはいけない!

9月1日号広報のほりべつ「災害から自分の身を守る」を読みました。

災害は、つい他人事のように思いがちですが、自分でできること、しなければならぬことを今一度、考えるよい機会となりました。

掲載されていた災害現場の写真を見ると、大雨災害の恐ろしさが伝わってきます。

以前から、登別はなぜ雨が多いのだろうと思っていたんですが、大学の先生の話を読んで納得しました。

「天災は忘れたころにやってくる」と昔から言いますが、防災は、忘れるわけにはいけません。自分の命は自分で守る」という話にはうなずきました。

(柏木町 会社員)

ちよつとひとこと

紙面上では匿名でも氏名、住所、電話番号をお知らせください。なお、個人や団体への中傷や営利を目的としたお話しはご遠慮ください。

ちよつとひとこと

ちよつとひとこと

仲間たち

登別太鼓同好会

会長 中砂六衛さん

(☎06)03223

『響け！ 北の大地へ！』

「太鼓のばちを持つのは初めてという方がほとんどでした。今では、だんだん形になってきましたが、響きのある良い音を出すのはとても難しいんですよ」と中砂さん。

登別太鼓同好会は、平成8年5月に結成され、会員は20代から60代までの大人が20名、小学生20名の計40名。現在、平成10年に予定されている白鳥大橋開通記念イベント「千人太鼓」の参加を目指して、毎週火曜日と金曜日に練習しています。

使用する太鼓は、陸上自衛隊幌別駐屯地から借用し、同駐屯地隊員による「北海自衛太鼓」から指導を受け、練習を行っています。今までに、北響祭実行委員会主催の「三百人太鼓」「六百人太鼓」に参加したのをはじめ、「のほりべつ豊水まつり」や「大地の祭典」「のほりべつ伝統芸能まつり」などに参加し、日ごろの練習の成果を発揮しています。また、8月7日には、グリーンコート三愛



と特別養護老人ホーム「緑風園」を訪問し、小学生による太鼓演奏を行いました。

「練習は、とても厳しいんですよ。太鼓は礼に始まり礼に終わるので、武道に通じるものがあり、精神修養になりますね。ばちさばきだけではなく、心を磨くことではじめて胸を打つ音を響かせることができるんですよ」と中砂さんは話してくれました。

会では、太鼓を譲っていただけの方を探していますので、中砂さんまでご連絡ください。

からび

地獄の辛さを味わうがよい

『のほりべつ閻魔ラーメン』

（株）望月製麺所

（新栄町）

「ラーメンといえば「札幌」の名前を入れたいと、観光客にはなかなか注目されません。でも「登別」の名前がついた名物を全国に広めたい。登別らしい名物をつくりたい。そんな願いが、この閻魔ラーメンに込められているんですよ」と語るのは、泉田覚社長。

地獄谷の閻魔伝説にちなんで作られた閻魔ラーメン。コシのあるめん、とんこつからうまみを抽出した特製スープがうまさの秘密。



これに添付の辛味スパイスを入れると、地獄の辛さを体験できます。もちろん、辛味スパイスを使わずともそのおいしさは一級品。コクのある白湯スープのうまみ成分が極楽へ誘います。

泉田社長自身が「口から火が出るほど」と言うその辛さは、辛党にも評判が良く、閻魔ラーメンの

虜になった観光客も多いそうです。パッケージの裏には、地獄谷と地獄まつりの紹介を載せて、登別を宣伝。また、「ラーメンの食べ方」で、2人の鬼が仲良くラーメンを食べているユーモアたっぷりのイラストは、泉田社長の遊び心から生まれました。

「閻魔ラーメンを多くの方に食べてもらうことで、登別ファンが増えるきっかけになればうれしいですね」と語る泉田社長。

閻魔ラーメンは、登別温泉街の各ホテルや観光土産店、市内のスーパードで販売しているほか、（株）望月製麺所でも販売しています。購入希望の方は問い合わせください。

▼問い合わせ (株)望月製麺所

(新栄町1-14 ☎06)2236

あすなろ

佐藤しのぶさん

(23歳)

登別温泉株式会社勤務



登別温泉の「さきり湯」を営む登別温泉株式会社勤務している佐藤しのぶさん。

入社して4年目の佐藤さんの仕事は経理事務。慎重で堅実な仕事ぶりは大変評判がよく、職場では先輩に慕われるリーダー的な存在として活躍しています。

仕事柄、コンピューターに向き合う時間が長く、いつも肩凝りに悩まされているそうですが、休日は、買い物や食事に出かけて気分

転換しているとか。

去年の「第33回登別地獄まつり」の閻魔大王前結婚式では、天女のような女官に扮装し、新郎新婦に三三九度の杯を渡すなど、式の重要な進行役を務めたという佐藤さん。

「自分の家を建てるのが夢なんです。広い庭があって、温泉付きだったら最高ですね」という佐藤さんの夢は大きくふくらんでいます。

①富岸公園



富岸小学校正門前にある、富岸公園（約1.2ヘクタール・富岸町2丁目）は、現在、幼児遊具広場、大型遊具広場、多目的グラウンド、バスケットボールコート、壁打ちテニスコートが完成し、スポーツなどを楽しむことができます。

このほか、遊歩道やベンチ、あずまや、花壇、フェンス、トイレの設置工事が進められており、来年3月に全面完成する予定です。（事業費は3カ年で約1億7千500万円）

▶問い合わせ 都市計画課（☎011-4115）

②岡志別の森運動公園（愛称 サンバル）



岡志別の森運動公園（約7.2ヘクタール・千歳町）は、『サンバル』野球場（両翼100m、センター120m）が今年の5月に完成し、大会や練習などに利用されています。来年3月までに、テニスコート（6面）やパークゴルフ場（18ホール）、ジョギングコース（1.2km）の建設と植栽の整備を予定しています。（事業費は2カ年で約4億3千万円）

- ▶建設についての問い合わせ 都市計画課（☎011-4115）
- ▶野球場の使用申し込み 社会教育課（☎011-1100）

市内の事業はここまで進んでいます

③道営登別東町団地の建設



今年の9月に完成した登別東町5丁目の道営登別東町団地は、3階建て12戸・1棟で12世帯が入居可能です。（工事費は、約2億5千万円）

入居の申し込みは、本紙17面の『情報あらかると』をご覧ください。

▶問い合わせ 建築課（☎011-4399）

④道営桜木団地の建設



10月末、桜木町4丁目の道道沿いに、道営桜木団地3階建て2棟（36戸）が完成します。

なお、旧桜木団地に入居していた方の住み替えのため、12戸が一般募集の対象となります。（工事費は、約7億9千万円）入居の申し込みは、本紙17面の『情報あらかると』をご覧ください。

▶問い合わせ 建築課（☎011-4399）

市は、私たちのまちの「ほりべつ」が、市民のみなさんに愛され、共にここで暮らす喜びを見いだせるまちにするため、さまざまなまちづくりを進めています。今号では、市内で行われている、主な事業の途中経過をお知らせします。

キラカ

『花を愛する人の輪を！』

谷 舘 磨 さん (市内第1号のフラワーマスター)

「フラワーマスター」は、花の育成管理やまちなみ景観に配慮して、花に関する知識や技術をもち、ボランティアで市民に指導や助言をする方です。

市のグリーン・スピリット・プラン(緑化計画)を進めるうえでますます重要性が高まっている「フラワーマスター」。8月末に北海道知事から市内第1号として認定された谷舘さんに話を聞きました。

●フラワーマスターになつたきっかけは

◆「園芸の仕事始めてから約8年になります。市から専門的な知識を生かして、フラワーマスター

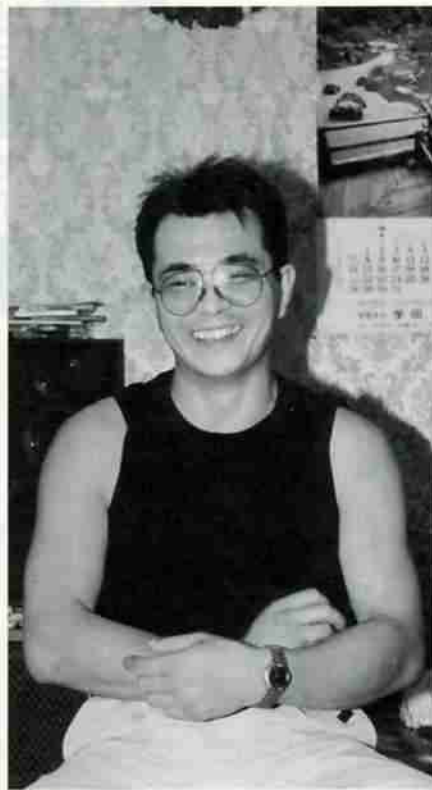
として活動しませんでしたという話があり、二つ返事でお受けしたんです」

●フラワーマスターになるまでの勉強は大変でしたか

◆「フラワーマスターの認定の前に、日本家庭園芸普及協会認定の『グリーンアドバイザー』や国家資格の『2級園芸装飾技能士』を持っていましたから、フラワーマスター認定のときの勉強はそれほど苦になりませんでしたね。みなさんもちよっと勉強するとフラワーマスターに認定されますよ」

●これからの活動としてどういうことをお考えですか

◆「市と協力して、花の植え方や



育て方についての相談を受けたり、花壇の管理についての講習会を開いたりといったことを考えています。将来は花が好きなお客を集めて、サークルをつくり勉強会を開くなど花を愛する人の輪を広げたいですね

花を育てる人は多いが、正しい育て方を知っている人が少ない、と言う谷舘さん。

私たちのまち登別が、美しい花でいっぱいになるのも、そう遠い日のことではないかもしれません。

「花の相談」の受け付けは、都市計画課(☎4115)にご連絡ください。

遊遊自適

池田康彦さん(68歳)

栄町

『荘厳な音色に魅せられて』

尺八は、本州でとれる真竹を細工して前に四つ、後ろに一つの穴があいている日本古来の縦笛で、一尺八寸(約54cm)の長さがあることから尺八といわれます。

池田さんが、その音色の荘厳さに魅せられ尺八を始めたのは、今から34年前。その後、習練を重ね、奥伝、皆伝、師範などの7段階を経て、18年前に大師範になったそうです。

全道の尺八コンクールに出場し、優勝したこともある池田さん。

現在は、尺八と三味線、琴の演奏者で組織する三曲協会の事務局長を務め、和楽器の普及に力を注いでいます。

「市内の小学校で、子どもたちに『春の海』や『六段の調べ』、『夕焼け小焼け』などを演奏しています。子どもたちは興味深そうに聞いていますよ。小さいころから和楽器に慣れ親しんで、その音色の



美しさや良さを知ってほしいですね」という池田さん。

「西洋音楽の五線譜と違って、尺八の楽譜はカタカナですから簡単です。でも、尺八は耳で覚えなければいけませんから、大変といえば大変ですね。演奏曲目は全部で270曲ぐらいあります。昔から尺八は首振り三年といわれています。上達の度合いは、その人によって音の出し方やリズム感が違うので一概には言えませんが、練習しだいですぐ上達しますよ」と話す池田さんのまなざしには大師範としての厳しさと包み込むような温かさが

光ります。

入会を希望する方が、なかなかいないのが池田さんの目下の悩み。

尺八を演奏してみたいという方は、池田さん(☎7298)までご連絡ください。

情報

あらかると

一日行政相談を行います

～秋の行政相談週間～

国や特殊法人（公団・事業団・銀行・公庫など）の業務、北海道や市の業務についての苦情や意見、要望をお持ちの方は、お気軽にご相談ください。相談は無料で秘密は固く守られます。

- ▼月日 10月18日(出)
- ▼時間 13時30分～15時
- ▼場所 鉄南ふれあいセンター
- ▼相談員 行政相談委員 石本重吉さん、山形貞子さん
- ▼問い合わせ 企画広報室 (☎851122)

ポリオワクチン追加接種のお知らせ

厚生省の調査で、昭和50年から52年までに生まれた方のポリオの免疫を保有する割合が、ほかの年齢層の方に比べて低いことがわかりました。

ポリオの免疫を持っていない方がポリオの発生している国を旅行したときや、極めてまれにポリオワクチンを接種した乳幼児から感染し、発病する可能性があります。

このため、市は、希望者にポ

リオワクチンの追加接種を行います。

※接種を受けるには事前に予約が必要です。

- ▼月日 10月24日(金)、11月5日(木)
- ▼時間 13時～13時30分
- ▼場所 しんた21(片倉町6丁目9-1)
- ▼対象 昭和50年から52年までに生まれた方
- ▼料金 1千円
- ▼申し込み・問い合わせ 10月17日(金)までに保健福祉課 (しんた21内☎850100)

乳幼児のための楽しい歯みがき教室

歯は一生使うもの。おいしく食事を取れたり、楽しくおしゃべりできるのは、健康な歯のおかげです。お子さんの歯が生えたとときから、歯の大切さを教えてあげましょう。

- ▼月日 10月27日(月)
- ▼時間 10時～12時30分
- ▼場所 しんた21
- ▼対象 歯が生えてきた乳児から幼児まで
- ▼内容 虫歯予防のお話(飯淵歯科医院院長飯淵良幸さん)、おやつを試食と交流会
- ▼参加料 150円(おやつ材料代)
- ▼持参するもの お子さんの歯

ブラシ
▼申し込み・問い合わせ 10月24日(金)までに保健福祉課 (しんた21内☎850100)

登別地区に診療所が開設されます

～登別東クリニック～

これまで無医地区だった登別地区に診療所が開設されます。開院は10月中旬ごろの予定です。※詳しい内容は、10月15日号の広報のほりべつでお知らせします。

- ▼所在地(当分の間) 登別東町1丁目17-17登別バストラルハウス1階
- ▼診療科目 外科、肛門科、胃腸科、内科
- ▼問い合わせ 保健福祉課 (しんた21内☎850100)

第4回 老人福祉センター祭り

- ▼月日 10月11日(出)
- ▼時間 10時～15時
- ▼場所 老人福祉センター
- ▼内容 詩吟・舞踊・歌謡曲・南京玉すだれ・富士保育所児童の遊戯などの発表、書道・絵画・写真などの作品展示、焼き鳥・揚げ芋・そば・うどんなどの販売

※車でお越しの方は、市民会館駐車場をご利用ください。
▼問い合わせ 老人福祉センター (☎851303)

登別市職員給与などの状況

問い合わせ 職員課 (☎8511322)

登別市職員の給与と職員数の現状を、市民のみなさんに理解していただくため、国家公務員の給与と比較しながらその内容をお知らせします。

市職員の給与は、その職務と責任に応じて支給される給料と、扶養・通勤手当などの諸手当から構成され、「登別市職員の給与に関する条例」に基づいて支給されます。また、給与は、毎

年度国の人事院が、国家公務員の給与を民間の給与水準と均衡させることを目的に行う勧告に準じて改定が行われます。

なお、国家公務員と地方公務員の給与水準を比較する際に用いられるラスパイレズ指数は、国家公務員を100とした場合、市職員は平成8年4月1日現在で99.0となっています。

◆決算額に占める人件費の状況 (平成8年度普通会計決算見込額)

住民基本台帳人口 (H9.3.31現在)	歳出額 (A)	人件費 (B)	人件費率 (B/A)	(参考)H7年度の人件費率
人	千円	千円	%	%
56,515	21,243,768	5,190,923	24.4	24.7

※人件費は、特別職の給与を含みます。(人件費=給料+諸手当+退職手当+共済費)

◆職員給与費の状況 (平成9年度普通会計予算)

職員数 A	給与費			計B	1人当たり給与 費(B/A)
	給料	職員手当	期末・費他手当		
人	千円	千円	千円	千円	千円
528	2,159,905	538,720	1,047,076	3,745,701	7,094

※給与費は、特別職の給与と退職手当は含みません。(給与費=給料+諸手当)

◆平均給料月額と平均年齢 (平成9年4月1日現在)

区分	一般行政職 (事務・土木技師など)	技能労務職 (運転手・清掃職員など)
平均給料月額	348,000円	321,300円
平均給与月額	414,400円	361,100円
平均年齢	42歳9月	46歳7月

◆部門別職員数の状況 (各年4月1日現在)

区分	職員数			対前年増減数		
	平成7年	平成8年	平成9年	平成7年	平成8年	平成9年
一般会社	6	6	6			
総務企画	108	106	106	1	△2	
税務	27	27	27			
民生	92	94	93	1	2	△1
衛生	59	57	57	△1	△2	
労働	5	3	1	1	△2	△2
農林水産	11	11	12	1		1
商工	15	16	19	△3	1	3
土木	57	55	56	2	△2	1
小計	380	375	377	2	△5	2
特別行政部門						
教育	71	66	62		△5	△4
消防	89	90	89	2	1	△1
小計	160	156	151	2	△4	△5
普通会計合計	540	531	528	4	△9	△3
公営企業部門						
水道	21	20	21	1	△1	1
下水道	19	21	21	1	2	
その他	11	12	12		1	
小計	51	53	54	2	2	1
合計	591	584	582	6	△7	△2

道営住宅新設団地 入居者募集

道営桜木団地・登別東町団地
の入居者を募集します。

▼募集内容

団地名	所在地	募集戸数・家賃	抽選日時・場所	入居予定日
登別東町団地 C棟	登別東町 5丁目	3LDK 12戸 24,500円～53,800円	10月22日(水) 13時30分～ 婦人センター	11月7日(金)
桜木団地 4号棟・ 5号棟	桜木町 4丁目	3LDK 12戸 24,700円～54,500円	10月24日(金) 13時30分～ 市民会館	11月10日(月)

※なお、桜木団地は、建て替え
前の旧桜木団地に住んでいた
方の住み替えがありますので、
募集戸数は12戸となります。

▼申込資格

◎家族で入居する方（婚約中の
方を含みます）

◎現在、公営住宅に入居してい
ない方

◎収入が収入基準の範囲内で、

それを証明できる方

▼収入基準

区 分	月收入額
・入居者または同居者が障害をもつ方（障害の程度に基準があります）	268,000円以下
・入居者が50歳以上で、同居者も50歳以上または18歳未満の方	200,000円以下
・上記以外の方	200,000円以下

※月收入額は、所得と家族数などにより計算されますので、問い合わせください。

▼経費

◎敷金（家賃の2カ月分）

◎毎月の家賃のほかに、ガス設備のリース料、共益費

▼申込方法

10月1日(水)から10月15日(水)（土・日・祝日を除く）までに、市役所建築課に備え付けの申込用紙で申し込みください。

※なお、各団地の申し込みは重複できません。

▼申し込み・問い合わせ

建築課（☎43399）

模範となる青少年を 推薦ください

登別市青少年問題協議会は、平成9年度登別市青少年表彰を行います。

郷土登別市の担い手としての豊かな心と実践力を持ち、ほかの模範となる青少年を推薦くだ

さい。

▼表彰の種類および対象

◎青少年善行表彰 市内に居住する28歳未満の青少年で、その活動がほかの青少年の模範となる方

◎青少年団体活動者表彰

（個人）市内に組織されている青少年団体に3年以上所属し、現に活発な団体活動を続け、ほかの青少年の模範となる方

（団体）市内に組織されている

青少年団体に5年以上の活動を続け、その目的が健全な文化・教養・体育・奉仕活動であってほかの模範となる団体

◎優良勤労青少年表彰

市内に居住する28歳未満の勤労青少年で、日常生活に誠実さが認められ、勤労年数が3年以上で職場においてもその職務に忠実、精励で、職務技能の向上、研さんに努めるなどほかの勤く青少年の模範となる方

▼推薦者

市民または職場の長、団体の代表者など

▼推薦・選考方法

社会教育課に備え付けの推薦書に記入し提出してください。推薦された方の中から青少年問題協議会が表彰者を選考、決定します

▼提出期限

10月20日(月)

▼提出・問い合わせ

社会教育課（☎1100）

◆退職手当の支給率

(平成9年4月1日現在)

区分	登別市		国	
	自己都合退職	勤奨・定年退職	自己都合退職	勤奨・定年退職
勤続20年	21,000月分	28,875月分	21,000月分	28,875月分
勤続25年	33,750月分	44,550月分	33,750月分	44,550月分
勤続35年	47,500月分	62,700月分	47,500月分	62,700月分
最高限度額	60,000月分	62,700月分	60,000月分	62,700月分

※退職手当＝退職時の給料月額×支給率

◆特別職の給料などの状況

(平成9年4月1日現在)

区分	月 額	期末手当の支給割合	
給 料	市長	870,000円	6月期 2.2月分
	助 役	700,000円	12月期 2.5月分
	収入役	630,000円	3月期 0.5月分
報 酬	議 長	400,000円	計 5.2月分
	副議長	350,000円	(一般職と同様に
	議 員	320,000円	加算措置があります。)

◆一般行政職の初任給と経験年数別平均給料月額

(平成9年4月1日現在)

区分	初 任 給		経験年数別平均給料月額		
	登別市	国	10年以上15年未満	15年以上20年未満	20年以上
大学卒	171,000円	171,000円	273,000円	333,400円	381,000円
高校卒	139,300円	139,300円	245,100円	286,400円	346,900円

◆一般行政職の級別職員数の状況

(平成9年4月1日現在)

区分	1級	2級	3級	4級	5級	6級	7級	8級	9級	計
標準的な職内容	係員の職務	係員の職務	係員の職務	主任の職務	課長主任の職務	課長主任の職務	課長の職務	次長・課長の職務	部長・次長の職務	
職員数	13人	12人	34人	43人	62人	118人	15人	41人	8人	346人
構成比	3.8%	3.5%	9.8%	12.4%	17.9%	34.1%	4.3%	11.9%	2.3%	100%

◆期末・勤勉手当の支給割合

(平成9年4月1日現在)

区分	登別市	国	備 考	
6月期 期末	1.6月分 勤勉	0.6月分 期末	1.6月分 勤勉	職務の段階、職務の級などによる加算措置あり
12月期 期末	1.9月分 勤勉	0.6月分 期末	1.9月分 勤勉	
3月期 期末	0.5月分 勤勉	一月分 期末	0.5月分 勤勉	
計	5.2月分	5.2月分		

※期末・勤勉手当は、民間企業のボーナスにあたります。



▼日本工学院北海道専門学校



このまちが 好き

100%満足できる祭りが
札内大地にやってくる!

就職率100%を誇る日本工学院
北海道専門学校で、「第16回工
学院祭」が開催されます。

インターネットの実演や各学
科自慢の展示など、満足度100%
の催しが盛りだくさん。

◎第16回工学院祭

▼日時 10月25日(土)、26日(日)
10時～16時

▼場所 日本工学院北海道専門
学校(札内町184-3)

▼内容 インターネット実演、
学科展示、模擬店、バンド演
奏、映画上映など

▼交通 JR幌別駅前から無料
バスを運行予定

▼問い合わせ 日本工学院北海
道専門学校(☎0888)

となりまち

ホットライン

室蘭市

落合恵子さんの講演会を開催します

作家、落合恵子さんを招き、社会のあらゆる分野に女
性と男性が共に参画し、喜びも責任も分かち合う社会の
実現を目指し、講演会を開催します。

▼日時・場所 11月8日(土)14時、室蘭市文化センター

▼入場料 無料(整理券が必要です)

▼整理券配付先 ◎登別市:社会教育課(市民会館内)

◎室蘭市:教育委員会社会教育課、胆振地方婦人会館、
室蘭市文化センター、室蘭市勤労青少年ホーム、室蘭
市勤労婦人センター、各サービスセンター・連絡所

▼問い合わせ 室蘭市教育委員会社会教育課女性学習
(☎48184)

伊達市

地元の特産品が勢ぞろい!

だて物産まつりへどうぞ

新鮮な旬の味覚をはじめ、伊達市と近隣市町村の特産
物を一堂にそろえて即売を行う「第15回だて物産まつ
り」。

会場には、いずれもおとらぬ特産品が大集合。伊達市
の姉妹都市の特産品や、サケの身とイクラを使った宮城
県の郷土料理「はらこ飯」など、ふるさとの味も取りそ
ろえています。また、お買い上げの方を対象に抽選会を
行いますので、ぜひお越しください。

▼日時 10月25日(土):10時～18時、26日(日):10時～16時

▼場所 伊達市立体育館(伊達市鹿島町・伊達市役所隣
り)

▼問い合わせ 伊達市商工観光課
(☎0142-3333)



◆人のうごき 人口 56,719(-20) 世帯22,996(+5) 平成9年8月末日現在 ()は前月比

■発行・編集 登別市役所総務部企画広報室(広報広聴) ☎059 北海道登別市中央町6-11 ☎0143-2111 FAX ☎1108